

2013 賀川記念館 since 1909

KAGAWA MEMORIAL CENTER

総合研究所 《講座》《研修》《研究》 公開プログラム

リーダーシップ養成

東日本大震災をどのように受け止めたらよいのでしょうか。また、地域にどのように向き合うことができるのでしょうか。

私たちに与えられたさまざまな課題を学ぶプログラムを用意いたしました。ともに学び、ともに語り合い、ともに生きるために、賀川記念館と一緒に歩みませんか？

暮らしと火水木風土



現代社会とキリスト教

地域とつながる

賀川と差別

現代社会とキリスト教 ～死と向き合う第2弾～ 「ゴスペルとお話」 市岡 裕子

今年のテーマは「死」。死とどう向き合うのか。現代社会では、量の上で死ねなくなったと言われて久しい。また、医療技術の発達にもない尊厳死や延命治療など、医療的な側面に加えて倫理的な側面も深く考慮しなくては死を迎えられない現実が存在し「死」の周辺での議論が多様化している。

一方で、自死者とその遺族の課題にも丁寧に向き合うことが求められ、戸惑いを覚えることも多いのではないかと。「死と向き合う第2弾」は、死と向き合いながら生き抜いてきた市岡裕子さんをお迎えする。

市岡 裕子 (いちおか ゆうこ) プロフィール

1964年西宮生まれ。吉本新喜劇看板役者、故岡八朗の長女。4歳からピアノと歌を習い始める。高校時代にジャズ、黒人音楽に触れる。フロリダのサンタフェ・コミュニティー・カレッジ秘書科卒業。貿易会社、領事館で勤めた後、家族の世話に追われる中で、再渡米。ハーレムの黒人教会で本場のゴスペルに出会い、1999年ブルックリン・クイーンズ音楽院にてブラックミュージックを本格的に学び、ゴスペルシンガーの道を歩む。2002年父、岡八朗の芸能生活45周年記念リサイタルにて父娘共演。翌年の2003年、NHK「にんげんドキュメント」でリサイタルに至るまでの親娘の絆が紹介される。同年、父娘共著の足跡を残した自叙伝「泣いた分だけ笑わした！」マガジンハウス出版を発売。講演では「人生の荒波に揉まれて来た経験から、足りないものに不満を言わず、有るものに感謝することを学んだ。」と語り、闘病や家族間の葛藤、夢と希望を持って苦しんでいる人達の役に立ちたいと語る。2008年より「市岡裕子インターナショナル・ミニストリー」を設立。タイのバンコクとチェンマイでエイズ孤児の為にチャリティー・ゴスペル・コンサートを開催、支援を続ける。ゴスペル歌唱、指導、そして、講演活動を通して、神様のメッセージを伝えたいと活動中。ゴスペルコンサートではエネルギー溢れるステージでゴスペルを歌い上げる。 <http://www.ichikayuko.com/>



市岡 裕子

市岡さんは、母親を自死で、弟さんを急死で失い、またアルコール依存症の父親の病床に最後まで寄り添ってこられた。その大きな喪失感の中で、イエス・キリストに出会い、ゴスペルにいたった。「どのようなときも、わたしは主をたたえわたしの口は絶えることなく賛美を歌う」(詩編 34:2)を原動力としている。自らの人生をかけた活動についてゴスペルとお話を通して語っていただく。

ピアニスト 大久保 和慧 (おおくぼ かずえ)

神戸女学院音楽部ピアノ科卒業。在学中よりホテルやイベントなどでの演奏を始める。ジャズピアノを鍋島直視、マーク・ソスキ、ノーマン・シモンズらに師事。現在、ゴスペルを中心に、ジャズライブやコンサートの演奏活動、ゴスペルクワイヤーなどの指導も積極的にやっている。市岡裕子 Spiritual Sounds ピアニスト、音楽療法を行うグループ「あんだんて」ピアニスト。NPO 法人関西ジャズ協会会員。ゴスペルクワイヤーの講師、Academic Dance Collaboration ピアニスト (Royal Academy of Dance 教則によるバレエクラス)、宝塚中ロータリークラブ ピアニストなど活動範囲は多岐にわたる。芦屋福音教会 教員



10/5

日時：2013年 10月 5日(土)

14:00 ~ 16:00 (途中休憩 15分有り)

会場：賀川記念館 4F メモリアルホール

神戸市中央区吾妻通 5-2-20

事務局：電話：078-221-3627

E-mail：office@core100.net

参加費：500円 (参加お申し込みは賀川記念館事務局まで)

※駐車場はございませんので、近隣の有料駐車場をご利用下さい。